

72 明治15年3月23日 菊池長閑

第五号三月廿三日

第四号本月十二日附過ル十九日達す鉄道会社ニ加入之義今一割  
 余ニ四百金を投入するハ如何ニも好からず現今之景況より見る  
 に田地ハ六七分ニ(株消)なら〔す〕さるのミならず豊凶あり長家ハ一  
 割位ニハなるへけれとも深く案すれハ火災の憂あり是ヲ除きて  
 ハ貸金なり□法といふハあれも我ハ知らず是ハ一割五分ニハ回れ共永き内ニハ  
 捨りなきにもあらずして見ると薄利にしても永々安心なるハ鉄  
 道なりと云ふより一時ハ信用したり其後新聞にも人の噂もとん  
 と消滅したる如くなりたるに大隈氏之咄に高崎迄ハ成就するへ  
 く其向ハいつ出るもの也無覚束と直話ヲ承る者の咄もあり昨年  
 貴様ハ心付申越たると符合すれハ旁二ノ足ニ候いまた何方も  
 誘引もなし答ありたらハ其節相談申入置し候間模様聞拔置可  
 し」公債証書ハ闡当之年ニ至而ハ直を□もあるへく其景況  
 此地方ニも響くハ勿論なれとも儲蓄金ヲ以て郡役所ニ而買上る  
 ハ下落ヲ押へるの一見込と考られ候然らされハ紙幣と共に品位  
 落而ハ当然なり闡当りのミとハいまた信かたし」御母様去月廿  
 四日ハ小便不利ニテ胸部ニ腫を催し大ニ心配南部医ヲ頼平塚ニ  
 相談為致候処本月四日ハ逐日其驗相顕れ十二日ニ床払被成即今  
 御全快安心致候御膝之御痛処もともに御全治兩養ヲ得て御歎ニ

候必竟ハ寒氣ニ御障リシ生たる趣なり

昨年一月貴様帰県中申入有之新渡戸も又おすみ義申来り是迄之様子ヲ承るに川辺氏ハ縁組したるに常昭と云ふの氣ニ入らず引取らずに近頃離縁之よし家内ハ四人之内親七郎ハ福島県開拓処在勤ニテ留守三人姑ハ宮部ヨ行き人柄好きハ藤田之姉様ヲ兼て承る処なり常昭ハ此節之書生風ニハ無之沈着なる方新渡戸家にしてハ活発ならず修業ニ兩度上京したるに兩度共脚氣ニ而不果帰県し一條ハ厄介したる由にて人物ハ委心得□へ直我社連と交際する由誰に聞ても人物ハ賞候又身弱なりと聞き是ハ第一等閑ならぬニ付今朝まで探索漸々近年治療を施したる医者へ行承るに生質丈夫ニあらず必竟弱質故兩度共脚氣ヲ煩是か為心臓の工合ヲ損したるものにて生質の心臓病ニあらず病身といふべき程ニあらねと兎角弱質之習ニ而養生家でもあれハ油断なく養生ヲし其内ニ体之一変する時期ニ至候ハ治するならん昨年癆瘡すたるハ誠ニ幸也と夫前平塚に承るに是も生質の物ニハあるましく若生質ならハ十二三歳之頃大事之場合なりまた東京などへ車なり共行かるゝ割合なし又療治する共全治之見込なきもの也余病之為メ不意ニ出たる病なれハ治療之驗あり二十四五年ニ成れハ体一変するものなり其場合ニ至りたらハ病もゆるゆるならんと平塚も昨年秋の頃手ヲ懸たる由ニ而人の噂のミヲ以之考ニ無之右之通なれハ病身にこそハなけれと抹消〔丈夫と云ふニあらねハ〕一生を貧なる不丈夫を知つゝ呉れハ不安心故一時ハ見合するに聞たれとつくゝ思ひ返さハおすみも最早十九にも成れハ此度之機会ヲ外して又と好機会あるやハ覚束なし又先方ハ前陳ノ如く家

内少之上抹消〔和〕睦敷七郎一子なく常昭ハ実ハ弟なれ共家督ニ成よし又外ハ妹一人病身にて家ニ在れ共人柄よきよし又

義と云ふにあらねハ此節にして願ふてもなき幸也かゝれハ遺憾なきにしもあらず何分一聞しかたく御母様之思召ヲ伺候処知も之様子ヲ聞くに医者なり其云ふ処ヲ聞けハ養生無巧之病症にあらす若き時ハ弱とも年ヲ遂ふて豆敷なるもの幾くもあり行末不安心之病身ならハ医者ニしてまさか偽を云ふましくと之仰なり横田姉様初家内とも同按なり然しておすみの存意を承れハ皆さへ好と思ふならハ異存なし嫁たる上の不幸ハ止むを得ず帰しといはゝ歸るへし若一子生たる上にて置といはゝ居るへし学校にも行き本一枚もよみ新聞も見て居れハ其場合ニ成るとも皆之心配懸る様ナ義ハ致間敷との申出なり前後深く考たるにあるましくなれとも取処なき申分にしもあら抹消〔ねハ〕す又前ニも云ふ通り今朝療治医菊池道濟之考もあれハつまり相談してもよきやと考問合申候おむちお波ニも相談可致候常昭ハ廿四歳之よし」同人義今に別家ニ成居候趣是ハ元は徴兵除ニ取計置最早適齡過たるニ付家督願書昨年認たる処七郎未だ老年といふあらねハ見合たる由外ニ男子なけれハ必家督取□など相違なしとや右之通なり前ニも申通一條にて厄介する事もある趣なれハ治士又ハ石井順治なども粗ハ心得居可申候求我社ニ負杯在京之者あるか其元にて穿鑿之年寄もあるへし熟談ニ至れハ来月引取るに申居候由丸裸なれハ注文通ニ参るや否難決し好にも悪敷ニも此返事次第先方エ挨拶可致候間一同相談之上速ニ返事差出候様可致候」一月三十一日附信書已来不來故案事られおむちまで申越たりしか十九日ニ便ありて一同安心喜悅ニ候」去ル十九日又

一昨夜より昨日まで懸け雪り山焼ケ之跡も皆白くなりたり外無  
別条候以上

武夫殿

長閑

尚以おすミ義おみちお波エも宜敷可申伝候

常昭下りミ々三年計りなるよし近頃追々豆敷方ニ成事下り

懸ケ頃とハ大ニ変れりと也

(封筒表)

「東京三十間堀老丁目六番地

菊池 武夫 殿

(消印1)

(封筒裏)

「岩手県盛岡加賀野

八十六番

(消印2)

三月廿三日出 菊池長閑

(消印1)

「盛岡・陸中・南岩手・三・二四」

(消印2)

「東京・一五・三・二九・リ」